

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-27

編集後記

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

51

(発行年 / Year)

1995-03-24

編集後記

★ 少しく楽屋裏を申し上げます。

優秀投稿論文の不足、これが編集部の悩みであります。やむなく依頼原稿ということになるのですが、十人をお願いしても、お応えいただくのは、まずは半数。そこで編集部はサバを読む。三篇ほしかつたならば六人をお願いする。

★ この度、編集部を読みは大巾に狂いまして。依頼原稿全篇到着、まさに嬉しい悲鳴というところなのですが、外間ゼミ出身諸兄弟のエッセイに至っては、締め切っても締め切っても続々到着、徐々に単純な悲鳴に変って来たのですが、いえ、外間先生の余徳をしみじみ感じたことございます。

★ だが、このような時、どうしても誤植は避けがたいものとなつてしまいます。いえ、これは言い逃れです。編集部は弱体ぶりを申し上げなければなりません。沖繩の言葉が出てきますと、それが誤植であるかどうかの判断さえできなかつたのであります。

★ そこで、山崎康弘氏に御登場願ひ、もつぱら氏のお力にすぎりました。それで、完璧な本号が出来上がりました。

★ むろん、外間守善先生の学徳、人徳のす

べてを完璧に伝え得た、などという意味ではありません。それはこの小冊子では不可能です。しかし、小田切先生はじめ御寄稿の諸兄弟の外間先生への敬愛、敬慕の諸論文・諸エッセイから、その一端はお伝えすることができたであろうと思います。

★ 法政はここに巨きな星を失うことになりましたが、今はただ外間先生の更なる御発展を祈らねばなりません。

★ 別れはいつも寂しく、今年また卒業シーズン。外間先生と共に学園を後にするみなさん、ウリズンの心を失わずに御活躍ください。

★ そして、そとほりに桜咲き、新入生のみなさんをお迎えます。『そとほり通信』は「おくりそしてむかえる」を特集しましたが、ポイントはむしろ「むかえる」に傾きました。この良き師良き友をしつかり見据えてください。

★ さて、ここに悲しいお報せを一つ。わが法政にもゆかり深い、中世文学の泰斗、永積安明先生（神戸大名誉教授）が、一月一日、ご逝去されました。謹んで哀悼の意を表すると共に、本誌No.52は中世文学を特集いたします。論文はもちろん、永積先生の思い出等、ぜひ御寄稿（p.46「寄稿要領」参照）くださいますように。（田中）

一九九五年三月二十四日	発行
日本文学誌要	第五一号
編集人	田中 单之
発行人	勝 又 浩
発行所	東京都千代田区富士見二ノ 一七ノ一法政大学八〇年館 法政大学国文学会 電話〇三(3264)九七五二
印刷所	ニチデン
口座番号	〇〇一六〇一七六九四三